

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』		
所在地	〒851-0115 長崎県長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は創設5年目を迎え、入居者との信頼関係を大切にしながら、御家族との結びつきも試行錯誤しながら開かれたホーム作りに取り組んで参りました、除々にではありますが、御家族様より「この施設が、あるお陰で大変助かっております今後とも宜しくお願いします」と力強いお言葉を頂く様になりました、今後は施設関連の同業者・地域の関わりでの自治会・近隣の教育施設関連の方々や地域に根付いた、入居者が安心して暮らしていける、地域の人達と支え合うホーム作りを目指したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いっしょに、いつも、いつまでも」の理念の基、職員の支援は利用者本位であり、その実践に意欲的に取り組んでいる。母体が医療機関であるため、週に一度の往診があり本人、家族とも医療面での安心感がある。明るく開放的なリビングでは、利用者同士が楽しく歓談する光景が各所にあり、おたがやな表情から居心地のいい暮らしぶりが見える。地域との交流盛んでお花見、ペーロン、市民大清掃など地域の行事にも利用者とともに参加しており、地域の一員となっていることがわかる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を朝礼時唱和し、お互い確認し日々のケアの中で言い交し介護の基本と地域社会の継続をされる為の理念としている。	職員は利用者とのかかわりの中で、「地域を含めて安心して暮らしていきたい、いつまでも一緒に家族と職員とみんなと一緒に」をモットーに、日々の支援の中で互いに確認し合いながら理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して行事に地域の方を招待したり、利用者と共に参加し交流を図っている。	事業所は町内会へ加入しており、お花見、ペーロン、市民大清掃など地域の行事にも利用者とともに参加している。事業所の行事に地域の方々を招待するなど地域との交流拡大に日々努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校の職場体験等の実習を受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での暮らしぶりやヒヤリハット等を提議し今後のサービスに活かせる様努力している。	昨年度は4回開催し、外部評価結果、利用者の暮らしぶりや事故・ヒヤリハット等の報告を行った。出席者から幅広く意見を聞きサービスに活かしたいと考えているが、今年度は5月に1回開催するに留まっており2回目を12月に予定している。	出席者の意見をサービス向上に活かすためにも、運営推進会議は年に6回の開催が望ましく、取り組みに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営やサービスの提供を行なっていく上で生じた課題は、市・町・村の担当者等へ相談したり協力関係は築いている。	制度的なことについて担当課に相談するなど電話や出向いている。ただし、事業所の実情を伝えるなど積極的な関係構築までには至っていない。	相談のみにとどまらず、行政センターなどを訪問し、ホームの説明や紹介、情報収集などのために足を運び、市町村との連携を通して地域の中のホームとして発信していくことを期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が安全で生き生きとした自由な暮らしが出来る様見守りを行い、さりげないケアが出来る様取り組んでいる。	自立支援の基本理念に基づき身体拘束をしない方針を貫いている。職員も検討を重ねながら身体拘束をしないケアの実践、さりげない見守りのケアの実践に取り組んでいる。ただし、安全優先の視点から玄関は施錠されている。	利用者の安全優先は当然であるが、安全を担保したうえでどうすれば玄関を開錠することができるか検討することを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が積極的に参加し勉強の機会をもうけ全職員で周知し知識の向上に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対応が必要な利用者はいないが、勉強会に参加し労務士より指導を受け今後の活用に活かせる様努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定に伴い利用料が増加する場合や、物価の変動による値上げを行なう場合は十分な説明を行い同意をもらう様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に何でも言ってもらえる雰囲気作り心がけており、意見や要望は職員で話し合い反映させている。	利用者、家族からの意見や要望、苦情の相談窓口・意見箱の設置、家族等との面談、家族会などの機会を通して意見の収集に努めている。意見や要望は協議し運営に反映させている。ただし、管理者は更なる意見の聴取を望んでいる。	更なる利用者、家族の意見要望の聴取のためにアンケートによる意見や要望の収集が試行されている。今後もアンケートも含めて家族等が自由に話せる環境づくりの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議で職員の要望を聞く様にして、勉強会を行いコミュニケーションを図れる様にしている。	毎日の朝礼時、職員会議、その他職員の気づきや提案、意見等を聞く機会を設けている。就業規則改定時には職員の意見を参考にし反映させている。職員同士の冠婚葬祭等互助の取組みは職員の意見が尊重された一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は勤務状況を把握しており、利用者と一緒に過ごしたり各自が向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が段階に応じて研修を受ける事が出来る様にしている。研修内容を発表し職員全員が共有出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会に参加し、行事の時には相互訪問し合いサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が今してほしい事状況等を把握し、素早く察知し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃の暮らしぶりを伝え、家族の要望に耳を傾け応える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安な事や困っている事に対して早急な対応が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の体調(不穏時)に合わせ、関係を築き昔ながらの暮らしの知恵を教えてもらいながら残存機能が維持向上出来る様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時にお互いに情報を交換しあい絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話を通して、思い出を共有し合う様努めている。	ドライブの途中で慣れ親しんだ景色を眺めたり、パーロン、運動会、市民清掃等地域の行事へ参加したり、家族の了解のもと以前の職場の同僚との面会交流を行うなど馴染みの人や場所との関係継続に積極的に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にし、一人ではないという不安な気持ちにならない様支え合える様支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの信頼関係を保ちながら家族のケアに努めている。退所されても家族の方が訪問されたり訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を重視し職員同士で改善策を検討しながら努めている。	優しく声をかけをしながら本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の情報や希望、日常生活における表情やしぐさ等を観察しながら常に利用者本位でその人らしい暮らしの向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に利用者の生活歴や馴染みの暮らし方生活環境を聞きながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調観察には特に気をつけ、ちょっとした変化も見逃さない様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中で利用者の気付いた事を話し合い、その人らしい生活が出来る様介護計画を作成している。	本人、家族の要望はその都度記録しており、日々の記録と職員の気づきを基に、ケアマネージャーが中心となって介護計画を作成している。作成した計画案は職員間で検討し、完成したものをケアマネージャーが家族に説明をし同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し記録、又ケアの気づき等も介護記録に残し職員間の情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院の送迎、気分転換の為にドライブ 買い物等にお連れしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、例えばペーロン・運動会等に積極的に参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も、本人のかかりつけの病院に通院出来る様支援している。	利用者、家族の意向を尊重しかかりつけ医の受診を継続している。基本的に通院は事業所に対応しており、場合によっては家族に依頼する事もある。また、母体が医療機関であるため、理事長が週に一度往診し、利用者の健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察で気付いた事はすぐに看護師に報告し対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、支援方法に関する情報を医療機関に提供し入院の状況等を家族と交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や入所時に終末ケアの説明を行い、スタッフは勉強会を行い、医療連携を行う様にしている。家族や本人の希望や思いを配慮しながら支援している。	重度化や終末期に向けた説明は、利用開始時や家族会で説明を行っている。利用者、家族の意向を踏まえ、主治医、関係医療機関と連携しながら利用者が安心して最期を迎えることができるよう、支援体制の整備に努めている。ただし、重度化、終末期に向けた事業所の指針は文書化されていない。	利用開始前や契約時に重度化や終末期に向けた説明を行う際に、文書として提示し、同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し掲示している。救命講習会に参加し講習で知り得た知識を職員に発表し共有出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、地域の消防団との関わりを持ち協力体制を築いている、又避難訓練も行っている。	災害時の避難誘導、連絡、対応マニュアルも整備され、年2回定期的な訓練も実施されている。自治会から民生委員の参加がある。地域の消防団と係わりを持ち、1月の出初式に参加した。ただし、近隣との合同避難訓練や関連機関との連携の確立は十分ではない。	災害時に利用者、職員が安全に避難できるよう関係機関と連携し、近隣との合同訓練の実施に向けて取組むことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく利用者に声を掛ける際は名字でお呼びする様にしている。トイレ介助の際はドアを閉める等の対応をしている。	個人情報を他へ提供する場合の条件は明確であり、利用者の居室へ入る際のノック、排泄介助を行う際のマナー等についても、自尊心、羞恥心への配慮にも努めている。ただし、居室のポータブルトイレが外から見える位置にある。	利用者の尊厳を守るため、居室のポータブルトイレの位置、又はカバーする工夫を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にしながら支援している。例えば、夜間休む前に次の日の服選び等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えに耳を傾け、希望にそって出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを損なわない様に整容・服選びをしている。自己決定が出来る様本人の気持ちに添って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3ヶ月に一度嗜好調査を実施し、利用者の好みを入れた献立作りをしている。	3ヶ月に1回、嗜好調査も行われ一人ひとりの好み が献立に活かされている。利用者とともに献立を 考え、食材を買い出しに行き、一緒に調理をして いる。職員は同じ食卓で一緒に食事を摂り、食事 を楽しむ機会を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事と水分量は個々のチェック表を作成し 管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	食後、全員に口腔ケアの声掛けを行い介助 している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のトイレ間隔に応じて声掛けし介助している。	オムツに頼らない生活を基本にしている。利用開始時からリハビリパンツから布パンツの移行を目標に排尿パターンの把握、さりげない声かけ、トイレ誘導で、誇りやプライバシーに配慮しながら排泄の自立にむけた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人に応じた対応を考え取り組んでいる。 (起床時の牛乳・ヨーグルト・水分量の確保等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や気分に合わせて声掛けし、不穏にならない様心がけている。	湯は毎日沸かしており、いつでも入浴できる。利用者の希望に合わせて一番風呂や同性介助に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。拒否の場合は、タイミングをみて声をかけ、一日置きには必ず入浴して貰えるよう日々努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせて声掛けを行い、安心して休んでいただいている。無理な声掛けはしない様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬の目的や副作用を知り、症状の変化に気をつけ症状の変化が見られたら早急に報告している。確実に服薬出来る様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみや役割を見つけ、その力を発揮していただける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族の面会時に本人の希望に応じて外出している。	利用者の希望に合わせて、お寺や買い物、散歩、ドライブなどの外出支援を行っている。家族の協力を得て、家族と一緒に買い物や外出、外泊など利用者の希望を把握し、積極的に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設で管理している。日用品の購入は個人の預かり金で買っているが、買い物等に行った場合は自分で払っていただける様お金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が望む時には、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋に座椅子を置きゆったりとくつろげる部屋を設けている。又、ソファに腰掛けていただいて足を伸ばせる様設置している。	清潔な共有空間を保つため朝から職員が掃除を行い、室温は23℃～26℃、湿度20%以上を保つよう配慮している。気の合った利用者同士がゆっくり話ができるようリビングには椅子やソファが置かれている。季節の花を生け、外からの自然採光も十分に取り入れ、快適な空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士を同じテーブルにして気軽に話しが出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意思を尊重しながら家具や飾り物等を配置し、落ち着く様な雰囲気作りをしている。	見学の際に、居室は自由に使えることを説明しており、利用者や家族の意向を尊重した居心地の良い居室となっている。職員は利用者のために仏壇に毎朝水とお茶を入れ、居室内の掃除している。換気も十分に行われており快適な環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室の手摺の設置を行い、安全な暮らしをしていただいている。又、居室にはネームを付け本人に分かりやすい様にしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者・ご家族・地域の人達との関わりを大切して、職員は理念(いっしょに・いつも・いつまでも)の精神で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年の始めにお茶会・春先にはお花見・夏には地区の清掃活動に参加したり、また9月には敬老会それ以外にも年末の近隣の保育園児の慰問・中学生の職場体験での実習交流など取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の同業者間での入居者・職員との交流など深めていき、認知症への理解を促し情報の交換など地域の人達と共にホームの繁栄に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での取り組みは定期的な馴れ合いでの会議を防ぐためにも前回での指摘事項の改善案・入居者の暮らしぶりを分かりやすく紹介できる資料を提供するように努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の指導・連携は今後も継続していきたい具体的には市町村主催の勉強会・講習会など職員を参加して質の向上に取り組んでいきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する職員の認識は、情報の共有を確認する事により夜間時での徘徊・ベット臥床時での滑落・頻回コールでの言葉かけなど認知症対応施設を理解し、未然に不穏・混乱・事故の危険防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の入居者への馴れ合いでの言葉の声かけ、介助の方法など信頼関係を損なわないように職員は心がけ、問題のある言動・行動は職員間で指摘、話し合い虐待が起こらないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・守秘義務についての講演を近くの公民館で労務士をお招きして勉強会を開きました。今後もこのような勉強会を設け、御家族相談の折りには支援できる体制作りをしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、十分に時間を設けて頂き、重要事項説明書及び契約書など、ご理解できるよう一行一行、双方で確認し納得・理解を得ています、退所時における場合も御家族への配慮には心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口には苦情箱を設置している、御家族からの投函はないのが現状で、苦情・御意見・要望など今後はアンケートによる御家族の御意見を反映させる方法を考えて取り組んでいきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見・不満・要望・など現場職員との理解に努め、調整・話し合いをし改善策を検討し協議をしている、その意見は議事録・口頭で運営者に伝え解答を頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営規則による就業・給与・労働時間・講習会への参加要請・改善案など職員で協議した意見は、運営者に施設長・管理者がお話して解答を頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は常勤者に対して年2回の学習会や研修での機会を設ける指示があり、職員は毎月1回の常勤者会議・フロアー会議で他の職員との発言機会を必ず設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・勉強会は去年の外部評価以降、盛んになり今後はその内容の充実を図り、職員・入居者同士での関わり方を今後どのようにするか努力する必要がある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体調の変化による気づきは日頃の声かけに対する表情・観察の様子・行動・会話(傾聴)から各職員には本人と関わり合う事を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の様々な問題は必要に応じて管理者が連絡をこまめにとり、ご家族の気持ちに添うよう対応し日頃の暮らしぶりの様子を伝え信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人への御家族の意向が伴う援助サービスは、必要性を見極めし、生活リハで補えない為、通院の困難さを考えると訪問によるリハビリサービスをP・Tにお願いしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護・支援に対する本氏の混乱・不穏・行動障害、暮らしの変化は、職員だけの問題とせず、御家族に連絡し状況の説明をし対応策を職員は協議し支援・協力に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族での外出・外泊での支援は、本人が動揺・混乱をしないように、日頃の暮らしぶりで情報の提供し、混乱しないように予想される事を報告し対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方も多く外出の折り、昔の街並みと現在の町の変化を説明し、ご自分が育った環境、苦労話に耳を傾け、外出が困難な方にも景観が見渡せる屋上散歩で昔のお話を聴くように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者への会話を大切にし、本氏の気持ちに寄り添い居室になるべく引きこもらせず、他の入居者と関わり合いをもてる生活支援に心がけ、孤立させないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前デーサービスに行かれていた病院の継続が本氏の身体的な衰えから、通所が困難になり、御家族の継続の気持ちを配慮し、個別による訪問リハビリでの対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知的なケアに対する入居者の様々な問題は、本人の意向を汲み取り職員で、最善案を協議し情報の把握検討し実践に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の意向を汲み入れ本氏の今迄生きてこられた背景を尊重し信頼関係を築けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は申し送りで入居者への日々の生活状況を把握すると共に、いつもと違う体調の変化に対応できるようにし各入居者への観察は、会話・声かけを重要視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の性格を職員は把握し、もち場・もち場の役割分担をして頂き、単調な生活パターンにならないように心がけ、意見・アイデアは職員で協議、御家族に相談して介護計画に組み込まれています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は日々の生活での体調の変化がなくとも必ず日常生活状況は記録しています。いつもと違う僅かな変化・気づきは記入するように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な通院での近隣の送迎、入居者の身体機能の衰えによる外出困難な方への訪問リハビリによる機能回復訓練・出張美容サービスでの散髪を受け入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練の際では所轄の消防局に立会いをお願いし、運営推進者会議では民生委員・地域関連の行事では自治会長、緊急時での対応は近隣の消防団にお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族は地域の病院の関わりも深く、体調の変化など急変時での対応は看護師・医師の指示を受け、関連病院へ連携し、御家族に早急な説明するように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化による不安・緊急時での対応など看護師・かかりつけの医師の協力は、マニュアル体制があり支援協力は得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者・御家族の関わりが疎遠にならないように情報の交換に努め長期の入院時には各職員連係して機会を設け見舞いに行くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアのご家族の考え、それに対するスタッフの心構え。様々なケースでの対応を検討し勉強する機会がない、職員の教育・医療連係体制の準備を今後の重要課題と認識している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年6月緊急連絡通報訓練を消防署、立会いで昼間に夜間を想定し実施、応急時対応の実施訓練(実技)はマニュアルは掲示しているが2年ほどしていないので今年実施する計画です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練は年2回実施している、地域の消防団との関わりを持ち協力要請はしている。今後は地域の人達と合同による訓練をお願いしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字で〇〇さんと呼びしています、御夫婦で入居の方には必然的に下のお名前と呼んだり「お父さん・お母さん」と、お呼びし自尊心を損ねる言葉かけは注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本氏の気持ちを大切にし、ご気分・体調不良などの面に考慮し決して無理強いはいしない日頃、本氏の生活面での動き・食欲・気分を把握し見極めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンが単調にならないように各入居者には洗濯物たたみ・おしぼりのセットする役割を手伝って頂き、思い思いに、お話し・足浴・お昼寝、10時のお茶 3時のおやつ時は会話を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替え・衣類の不足は、本氏への希望を聞き入れ御家族へ相談し、必要な衣類などお願いしている。美容院・散髪など本氏の意向と、御家族へ考えを尋ねるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が各テーブルに座り、入居者等の食事量など観察しながら盛り付け・味付けなど感想を聞いての食事風景です・・はっきり批評を言われる入居者の方とのお話を聞きながらの楽しい食事です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のバランスは各入居者のチェック表で管理、体調不良や便通の影響もあり食欲不振の方には食べやすい物や嗜好品を提供し、こまめな水分補給に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの対応は出来る方には必要以上に干渉はしていません。入れ歯洗浄・歯磨き・うがい・など御自分で、出来る範囲を見極め職員は介助・見守り・磨き残しがないよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で水分量を把握し時間毎の声かけをしてトイレ誘導を心がけている。職員はオムツの使用を減らすように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の水分量・食事量を職員は入居者の体調面を把握してチェック表により入居者等の排泄パターンを見極め、過度の便秘薬に頼らず食事・飲み物・運動にて自然排便を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	判断が難しい入居者には声かけるタイミングなど気分・体調が良い時に入浴して頂き、その見極めは各職員、把握している強固な拒否には時間をあけたり、入浴を介助する職員の対応も配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者それぞれに睡眠のリズムがあり夜間時不眠においては本氏の体調不良・心配事からの不穏の影響もあり、日中でのレク・傾聴・体操・外出の気分転換を行い、昼間の長時間の入眠を避けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し薬の副作用・目的・容量が分かるようにしている、職員は変更の主旨を理解し、確認しています。看護師・医師と連携を取り合い服薬しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者へ役割が片寄らないように持ち場・持ち場の各入居者の役割を考慮し・洗濯物たたみ・おしぼり作り・生け花・新聞紙折り・催し物での挨拶代表などをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	殆ど方が我が家に帰りたいと言われ外泊での支援協力をしています。高齢化により体調の不調、体力の低下による外出の頻度は少なくなりましたが、地域の人達と一緒に催し物の参加、外出支援に協力して行きたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの購入は施設で管理している、お金で購入するが外出時に立ち寄り買い物のは財布にそれぞれお金を一定金額持たせ思い思いに買って頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族・知人の電話の取り次ぎは本氏の日頃の安否への確認もあり快く対応している。また本氏の混乱を避けるため、電話先のお名前と贈り物への対応は即日、身元引受人の御家族に御連絡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるお花・折り紙・飾り絵・催し物などの写真の展示、。面会の際に御家族がくつろげる、ソファの配置を考え過ごしやすい環境を工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい本氏の気持ちを汲み取りスペースを確保して、ソファの位置を工夫したり、入居者同士・御家族の会話がゆっくり出来るような場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の写真、生活必需品などすべて大切に扱っています、馴染みの深い小物類や本氏の思い出の品が無くなると不穏の原因になるので、所定の場所に必ずあるように気配りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	思い込み・妄想・失見計・への混乱は本氏の気持ちに添うような傾聴、施設内の工夫、色・形・表示などで混乱の防止、職員の未然の誘導で対応しています。		